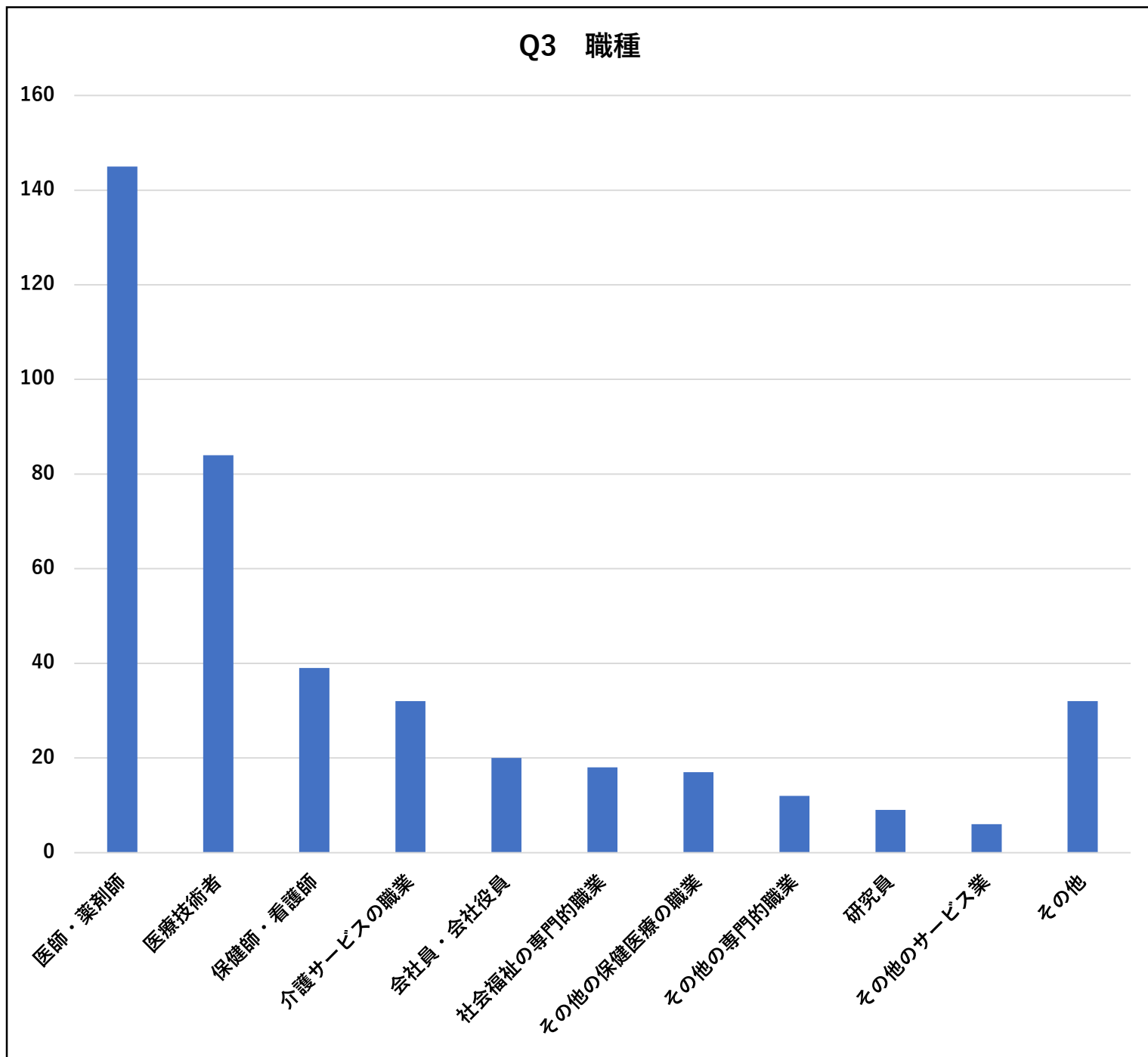


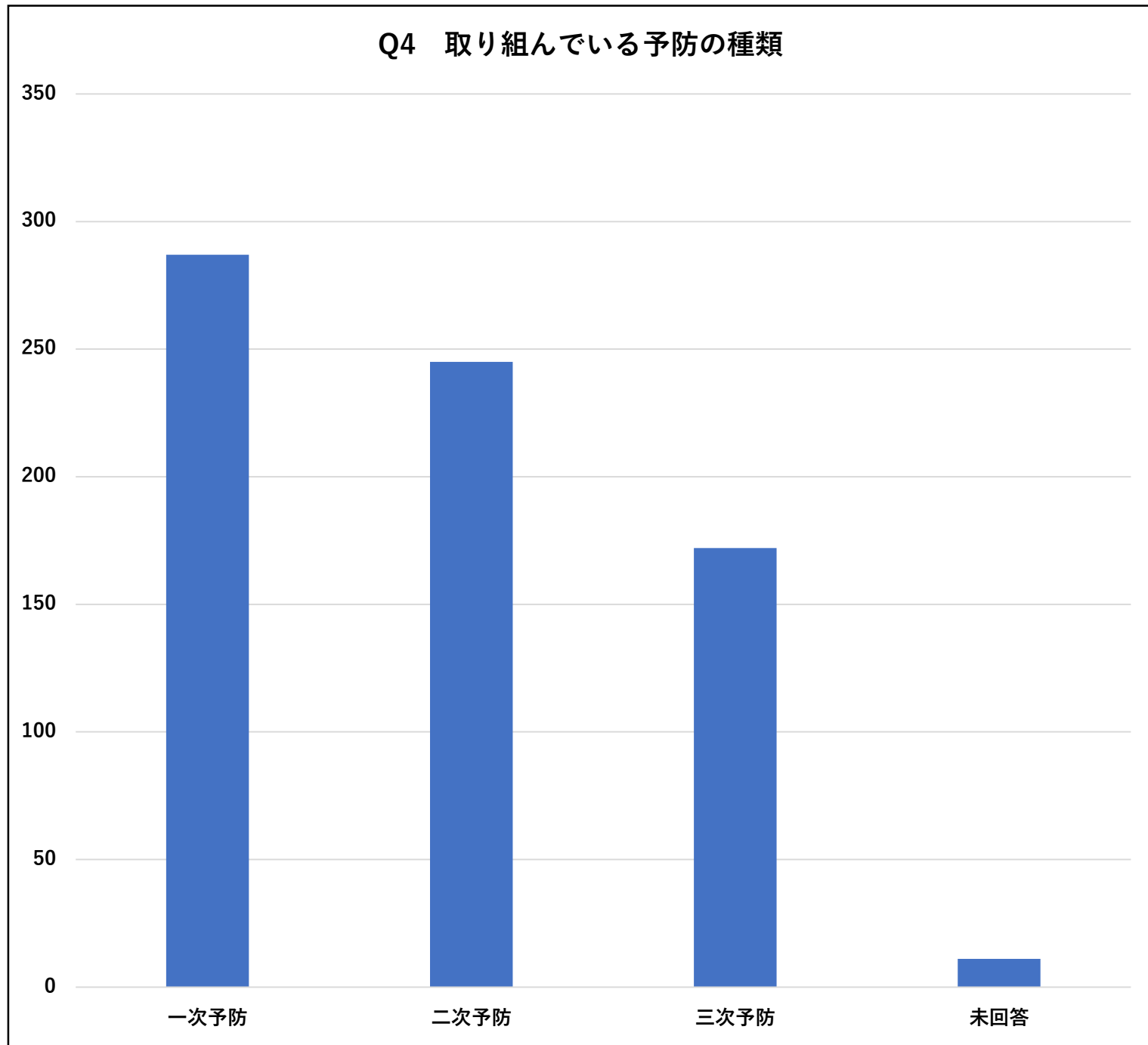
一般社団法人  
日本認知症予防学会

新型コロナウイルス感染症  
アンケート調査結果

Q3 職種	人数
医師・薬剤師	145
医療技術者	84
保健師・看護師	39
介護サービスの職業	32
会社員・会社役員	20
社会福祉の専門的職業	18
その他の保健医療の職業	17
その他の専門的職業	12
研究員	9
その他のサービス業	6
その他	32
合計	414



Q4 取り組んでいる予防の種類	人数
一次予防	287
二次予防	245
三次予防	172
未回答	11
合計	715

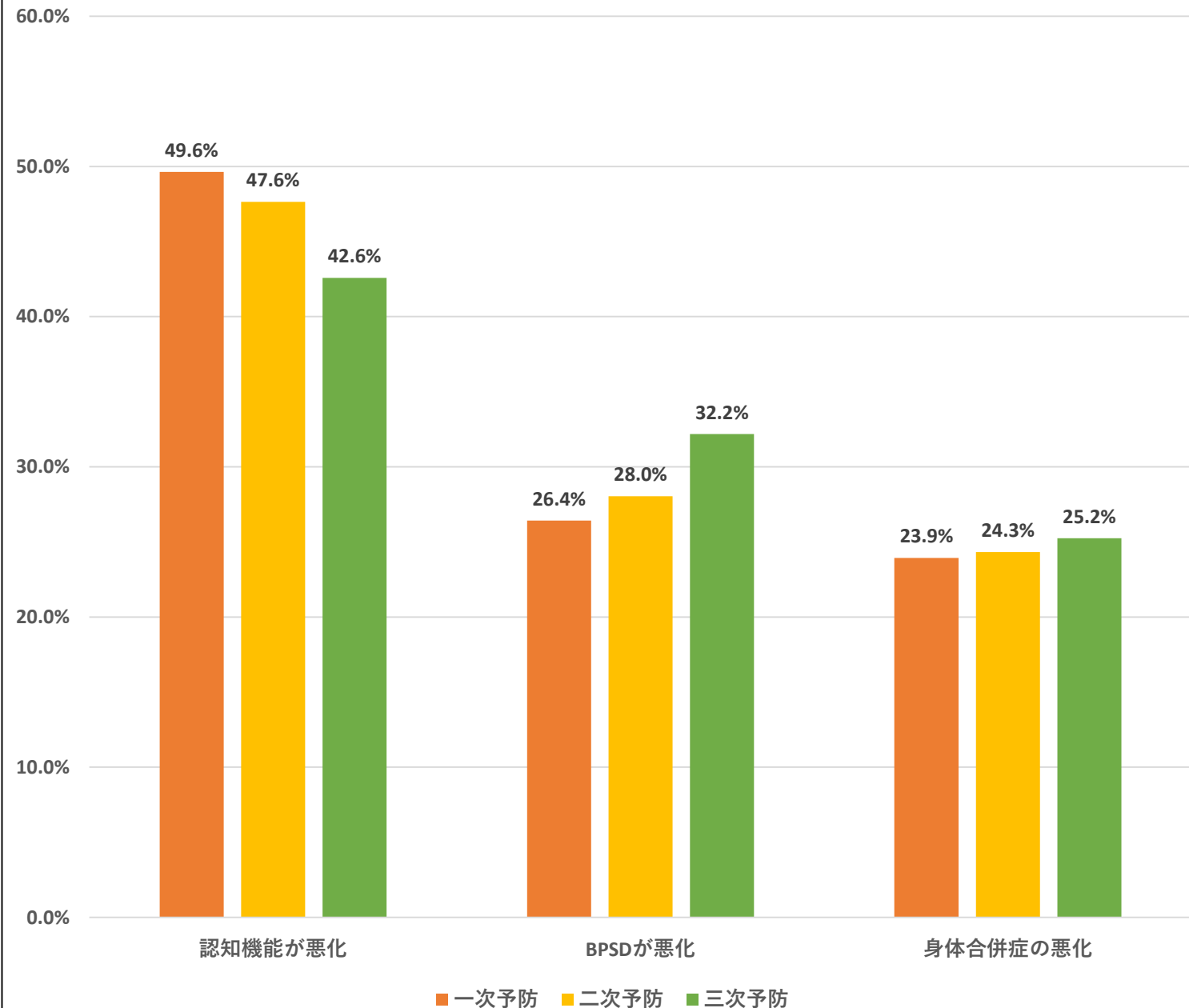


### Q5 対象としている高齢者の状況はいかがですか？

(数字は人数)

	一次予防	二次予防	三次予防
認知機能が悪化	139	141	86
BPSDが悪化	74	83	65
身体合併症の悪化	67	72	51
合計	280	296	202

### Q5 対象としている高齢者の状況はいかがですか？

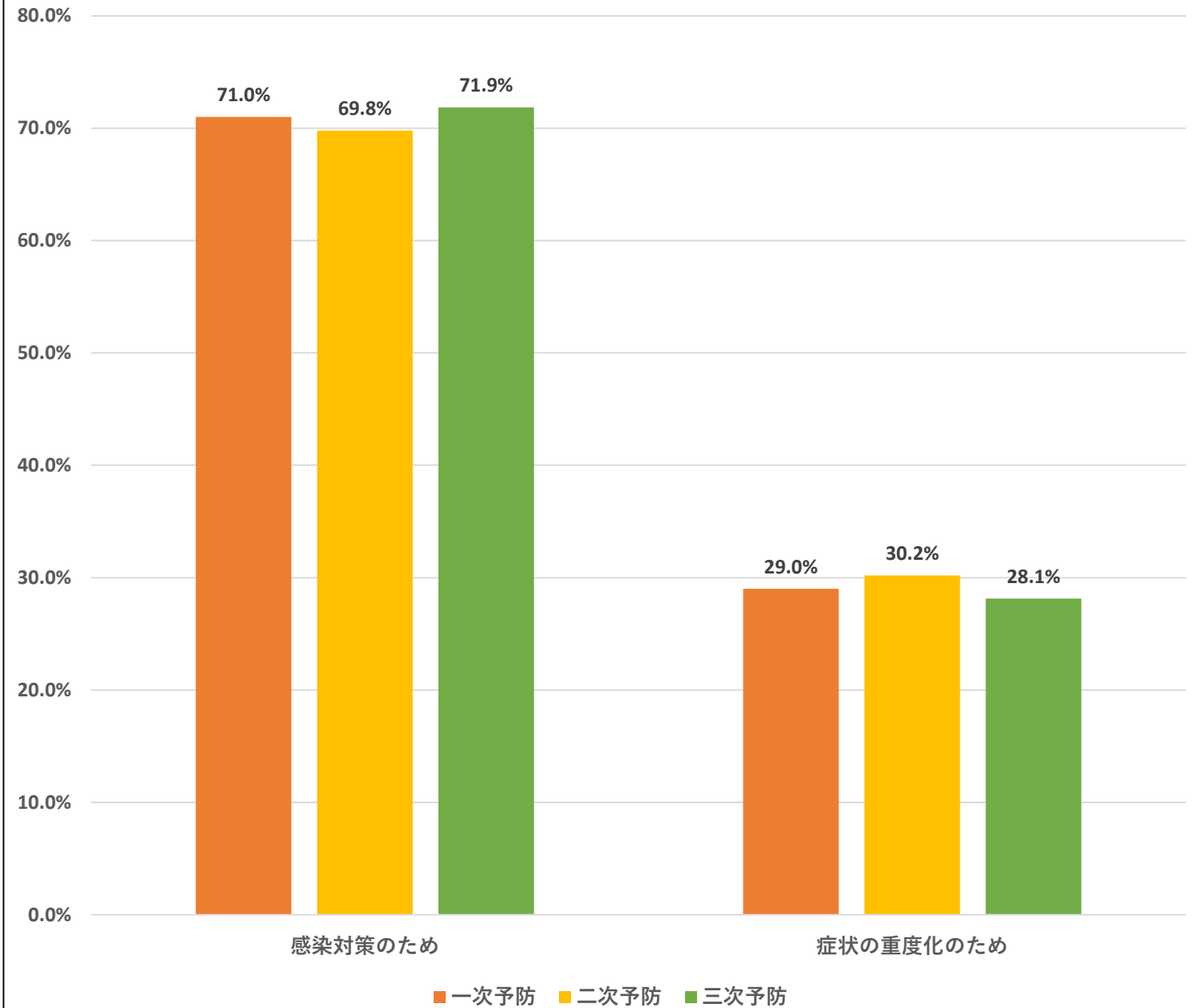


## Q6-2 6で負担増加の具体的な内容は？

(数字は人数)

	一次予防	二次予防	三次予防
感染対策のため	142	134	97
症状の重度化のため	58	58	38
	200	192	135

## Q6-2 6で負担増加の具体的な内容は？

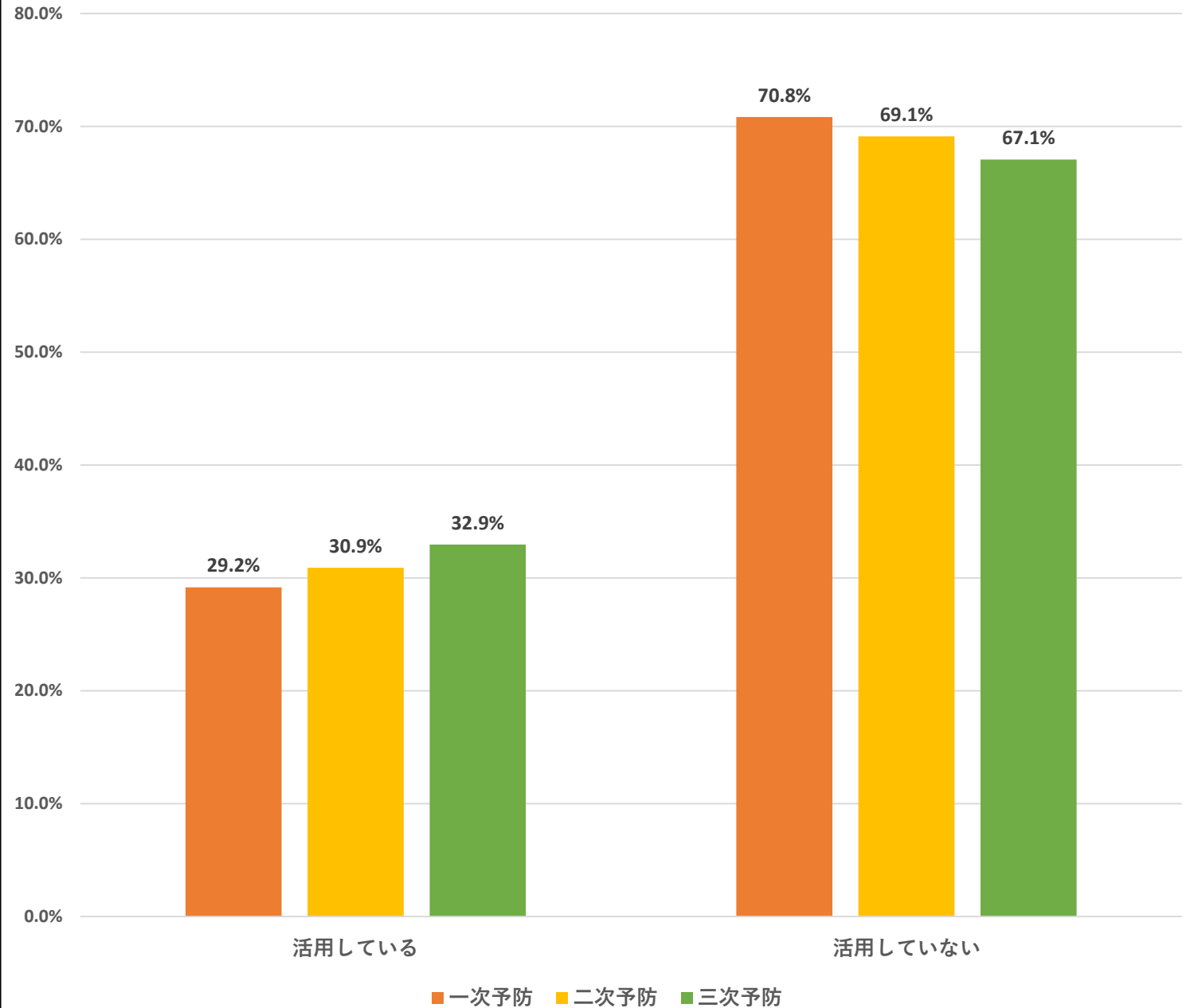


## Q7 オンラインの機器を活用していますか？

(数字は人数)

	一次予防	二次予防	三次予防
活用している	84	76	56
活用していない	204	170	114
	288	246	170

## Q7 オンラインの機器を活用していますか？



## まとめ

- 1) 認知機能の悪化が最も多かったが、それは一次～三次までのすべての予防段階で共通していた。
- 2) BPSDの悪化は三次予防で多くみられた。
- 3) 医療・介護面での負担は約7割の方が感じており、そのほとんどが感染予防への配慮のためであった。認知機能の悪化が多くみられているのに、症状の重度化が負担になるとする回答した例は少なく配慮する余裕がなかったのではないかと考える。
- 4) オンライン活用の事例は少なかった。理由としてはオンライン環境が整備されていないことであった。
- 5) オンラインが活用できない状況での対策として、スタッフが電話や手紙で連絡や指導を行ったことが効果的であった。

## 日本認知症予防学会としての取り組み

- 1) 現状の早期把握のため会員向けアンケート調査を実施した。
- 2) 取り組みの好事例をまとめ会員に情報提供をした。
- 3) 学術集会の延期、講習会の中止に伴い、オンラインを活用した講習会を企画している。
- 4) コロナ禍の高齢者が自粛生活の中で認知機能が悪化する危険性を社会に周知するために、学会のホームページにアップすると共にやマスコミ（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等）の取材への対応をして積極的に啓発活動を行った。